

## 初めての夏

30℃以上の真夏日も増えてきて、本格的な夏の到来も間近となってきましたが、新型コロナウイルス感染症を警戒しながら迎える初めての夏となります。

コロナがなければ、今月 24 日は東京オリンピックが開幕する日でした。楽しみは来夏までの延期となりましたが、コロナが終息へと向かい、来年こそは無事に開催できることを祈るばかりです。

今年は子どもたちの夏休みも大幅に短縮となり、夏のイベントや行事も中止が相次いでいることから一抹の寂しさを感じていたところでしたが、夏の風物詩ともいえる高校野球が、関係者のご努力により、県独自の大会として中山公園野球場ほかで、7月12日より無観客で開催されることになりました。また中学生の大会も国、県レベルの大会は中止となりましたが、飛騨地区の中体連は、感染防止に気を付けながら開催する運びとなりました。

長期間にわたった休校や部活動の停止により、十分なパフォーマンスは難しいかもしれませんが、特に最上級生となる3年生には、これまで指導していただいた先生やコーチ、ともに助け合った仲間感謝しつつ、精一杯のプレーと悔いのない試合をしていただくことを期待しています。

さて、コロナによる緊急事態宣言の全国解除から1か月が経過しましたが、世界では感染者数が1000万人、コロナによる死者は50万人を超えるなど未だ拡大が続いています。国内においても毎日の新規感染者の発生が一進一退の状況が続いていますが、私たちの行動様式は緊急事態宣言下の自粛から、自らの行動をコロナ共存社会に合わせてコントロールする自製の段階に移ったと認識しています。社会経済活動を継続していくためには一人ひとりが行動を自制することが重要であります。

先般、秋の高山祭の中止が神社関係者の話し合いにより決定されました。

祭の中止は大変残念なことではありますが、関係者の方が苦渋の上に判断されたことですので尊重したいと思います。今回の祭に限らず、コロナと共存する社会においては、いろんな方がいろんな場面でこうした判断をしていかなければならないことがあります。安全の確保が十分できないと判断した場合に慎重な判断となることはやむを得ないことだと考えています。

市では、コロナの発生からこれまで、刻々と変わる状況の中、次々現れる目の前の課題への対応に終始してまいりましたが、コロナとの闘いが長期戦となることも見据えて、中長期的視野で目指すべきまちづくりを見失うことなく、バランスの取れた施策を展開することがこれまで以上に重要と認識しているところです。

市では、県境を越える移動が全国的に緩和された6月19日から、感染防止対策には留意しつつ、近隣市村や観光事業者と連携して観光施設の無料入館や宿泊割引などのキャンペーンを全国に向けて発信いたしました。

また本日7月1日からは、市民の市内宿泊に5,000円、または日帰り利用に2,000円を助成するキャンペーンがスタートします。これは高山市旅館ホテル連絡協議会が市の補助金を活用し、コロナで打撃を受けている市内宿泊施設の支援と市民の皆さまの心身のリフレッシュなどを目的に実施されるものです。市民の皆さまには、市内の宿泊施設に泊まる機会はそれほどなかったかと思いますが、ぜひこの機会に日本一広い高山市の色々な場所にお出かけいただき、発見した新しい地元の魅力を市外の知人や友人にもその魅力を発信していただけたら幸いです。

これから暑さが厳しくなってまいります。市民の皆さまには、熱中症にも十分にお気をつけいただき、健やかに過ごしていただくことを祈念いたしております。

令和2年7月1日

高山市長 國島芳明